



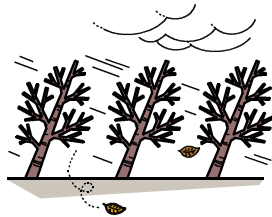
# 小田小だより

平成29年2月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校



## 冬来たりなば春遠からじ ～幸せな春を予感する二月に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

2月4日が立春とは言え、1月20日の大寒を中心に1年で最も寒さが厳しい時期が続きます。さて、「冬来たりなば春遠からじ」という言葉があります。厳しい冬が到来したということは、温かい春がもう目の前まで来ているという意味ですが、辞書を引くと、「人生の厳しい冬もいつまでも続くわけではなく、希望に満ちた未来がすぐ後ろに控えている。」とも書かれています。幸せな春を予感する季節です。来たる春に備えて、先月に引き続き「幸せって何だろう？」そんな思いを抱きながら、今月号も記させていただきます。

世界一幸せな国と言え、インドと中国の間にあるブータン。経済的には決して豊かとは言えない国ですが、国勢調査では国民の97%が「私は幸せである」と答えています。ブータンは、ヒマラヤ山脈の南にある王国。面積は九州とほぼ同じですが、人口は九州の1/19の70万人。チベット大乘仏教を多くの人々が信仰する仏教国で、自然豊かな農業国です。小さな国ですが、非常に豊かな文化があり、伝統は今なおブータンの人々の日常生活に残っています。特徴的なのは、「国民総幸福量(GNH)」を提唱し、「国民総生産(GNP)」で測られる経済的な成長よりも、国民の幸せ度を上げることが重視していることです。さらに、近代化はするけれど、西洋化はしないという方針をとり、そのための仕組みも作っています。

2011年11月17日、来日していたブータン王国ジグミ・ケサル国王が、国会で演説を行いました。私は、その演説をニュース特番で聴きました。心の充実を追求する「国民総幸福量」という考え方に基づく国づくりで知られるブータンの国王陛下の思いやりと愛情のこもった演説は、東日本大震災で辛い思いをしていた日本国民に自信と勇気を与えながら、幸福のペールで包み込もうとしているように感じたのは私だけではなかったでしょう。

そんなブータンなのに、日本語の「幸せ」、英語の「Happy ハッピー」という言葉が無いというのです。「幸せ」に似た意味の言葉として、ブータンの現地語ゾンカ語で「セムゲエ」という言葉があるようですが、その言葉は直接的には「心が気持ちよい」「心地よい」という意味を表しているようです。加えて、ブータンの人々は「セムゲエ」という言葉を使いながら、「私の心が気持ちよい」という状況を創り出そうとしているというのです。

ある評論家は、「ブータンの人々は将来こうなるかもしれないと思いつくよりも、今この瞬間が心地よいかどうかを重視し、心地よさの積み重ねの結果すてきな社会を築くことができると考えている」と分析していました。ブータンを訪れた多くの観光客は「ブータンの人々は、非常に穏やかで譲り合いの気持ちはある」という印象を抱くといいます。ブータンを旅行した知人も、「国内には一つも信号がなくて、人々は譲り合って通っているんだよ。ブータンには野良犬が多くて、道を横切っていく犬も多いのに、そういったときものんびりと待っている。自然豊かなブータンの景色も良かったし、まるで我々が生まれ育った古き良き時代の昭和30年代のような長閑さがあると思った。」

と語っていました。それから、担当してくれたドライバーに、知人が幸せかどうかを尋ねたところ、彼はまだ若いにも関わらず、「幸せかどうかは、自分の心が決めること。自分が幸せなら周りの人も幸せにしたいくなります。」と、達観した答えを教えてくれたとのこと。毎日長い時間を祈りに費やすほど敬虔な仏教徒であるブータンの人々。彼らは将来を思い悩むよりも、今心地よいかを重視し、周りとの比較から幸せを定義するのではなく、自分で幸せを探そうとしているのでしょう。

「福は一家(うち)！」

もうすぐ節分。「福」は既に一人ひとりの心の中に住んでいて、心のもちようで目の前に現れてくるのかもしれない。